6. 評　価

Evaluation

【1】 外部評価

1．外部評価委員会の開催

平成28年11月28日(月)、「弘前大学COC事業及び青森COC+事業外部評価委員会」を弘前大学創立50周年記念会館にて開催した。

本委員会は、学識経験者、行政機関関係者、企業等関係者らによって構成され、弘前大学が平成26年度に採択された「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」及び平成27年度に採択された「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の取組に関して、第三者による客観的評価を行うために設置された。

委員会には、外部評価委員である山形大学理事・副学長の安田弘法氏、函館市企画部次長兼国際水産・海洋都市推進室長の本吉勲氏、一般財団法人青森地域社会研究所常務理事の竹内紀人氏、青森県高等学校長協会会長の成田昌造氏、青森コミュニティビジネス株式会社(青森県男女共同参画センター館長)の小山内世喜子氏が出席した。

佐藤学長による挨拶の後、委員長に安田氏が選出された。続いて平成27年度の弘前大学COC事業及び青森COC+事業の取組や実績について、各担当者から説明を行い、その後、各委員から、事業に関する評価や改善の提案など、忌憚のない意見があった。

安田 弘法 委員

本吉 勲 委員

竹内 紀人 委員

成田 昌造 委員

小山内 世喜子 委員

2．外部評価結果報告

弘前大学COC事業及び青森COC＋事業 外部評価結果報告書

弘前大学ＣＯＣ事業及び青森ＣＯＣ＋事業外部評価委員会

日　　時　　平成28年11月28日（月）13時30分～16時15分
場　　所　　弘前大学創立50周年記念会館　２階　岩木ホール
対象年度　　平成27年度

《外部評価委員》

委員長　　安田　弘法【国立大学法人山形大学理事・副学長】
委　員　　本吉　　勲【函館市企画部次長，国際水産・海洋都市推進室長】
委　員　　竹内　紀人【一般財団法人青森地域社会研究所　常務理事】
委　員　　成田　昌造【青森県高等学校長協会　会長】
委　員　　小山内　世喜子【青森コミュニティビジネス株式会社（青森県男女共同参画センター館長）】

弘前大学ＣＯＣ事業外部評価結果

評価項目	委員１	委員２	委員３	委員４	委員５
実施体制	3	3	3	4	3
教育	4	4	4	4	4
研究等	3	3	3	4	3
社会貢献	3	3	3	3	4
全体評価	3	3	3	4	3

《評語》

４：計画を上回って実施している／３：計画を十分に実施している
２：計画を十分には実施していない／１：計画を実施していない

外部評価委員長からの総評

【弘前大学COC事業に関して】

弘前大学は，北東北地方の中規模総合大学としての特色を生かし,「世界に発信し，地域と共に創造する弘前大学」を掲げて，地域の特性に沿った教育・研究・社会貢献活動を行っている。その中で平成27年度の弘前大学COC事業も2年目に入り，平成26年度に整備した推進体制のもとで具体的な成果を上げていくことが求められるが,青森地域COC推進協議会で寄せられた意見，外部評価委員会の意見等を踏まえてPDCAサイクルを向上させ，事業の目的や効果を意識した企画が数多く実施されている。その結果，教育・研究・社会貢献の各分野において，達成目標に向かって計画が順調に実施されたと評価できる。COC及びCOC+事業の自己点検評価においても，自己を高く評価するということではなく，適正に評価されていると判断する。また，本事業のねらいを取り込んだ教育研究組織の改組についても，平成28年度実施に向けて準備が整えられており，**計画を十分に実施している**と評価できる。

今後の課題としては,COC及びCOC+事業の取り組みをもっと県内の企業の方々に知ってもらい，弘前大学が地域を志向した大学改革を推進していることを理解してもらう必要がある。優秀な学生を地元に残すために，企業にもっと危機感をもって欲しい。そして，本事業をいい機会として，弘前大学が中心となって産官学が一体となり，青森を愛し，地域の産業・生活・社会システムに新たな価値を創造できる「人財」の育成を引き続き進めていただきたい。

外部評価各委員からの意見等①

《弘前大学ＣＯＣ事業に関して》

■　国立大学の先生がここまで地域志向に持っていけるものなのかと，驚きとともに感動した。是非，入学したばかりの学生に対しオリエンテーションのような時に周知していただきたい。地元企業に関しては，学生が知らない，地元の人が知らない，特に子供達の両親が知らないということがある。そういう意味で，弘前大学が地域を志向した大学改革を推進していること，こんな企業が頑張っている等，この事業をもっと全面的に押し出していけば，地元としても大変喜ばしいことではないか。

■　青森県の高校生はほとんどの学校で探究型学習を行っている。進学校だけでなく，専門高校は前から探究型学習の取り組みをしていて，小・中でもそういう学習形態を行っている。それが全てではないが，そういう学生が大学に来ているという前提であってもよいのではないか。義務教育，高等教育はそういう学習にシフトしてきているというところが現実である。その子供達をさらに育てていきたいと思う。評価については，計画を十分に上回って実施していると捉えている。

■　ＣＯＣ，ＣＯＣ＋の取り組みをもっと県内の企業の方々に知ってもらう必要があるのではないかと思う。逆に，企業は危機感を持ってしっかりと取り組んでいかないといけない。せっかく学んだ学生達が地元に就職したいけれども，自分がやりたいこと，やれるような環境の企業がなく県外に就職している。優秀な学生を地元に残すために，企業がもっともっと動かなくてはならないのではないか。先日，弘前大学の教育学部を１５年前に卒業し，現在警察に勤務している方と話す機会があった。その方は，ジェンダー，女性の問題，雇用の問題についてすごく興味を持って色々なことを知っていた。理由を尋ねたところ，学生の頃，教育学部の先生から，これからは学校教育だけでは地域を変えることはできない。地域課題を学生一人ひとりが見つけて自分達の力で何とかする，そういう思考と力を持たなければいけないと言われたとのことであった。先生方のひと言ひと言，行動，考え方は非常に学生に大きな影響を与えると思うので，ますます頑張っていただければと思う。評価については，すばらしい取り組みをしている。とは言え，これからが重要だと思うので，是非頑張っていただければと思う。

■　これをいい機会にして，弘前大学が中心に産官学がいい危機感を持って対応していただければと思う。

■　見事にセンターを張っていて，計画を十分に実施していると判断する。

■　海外にも目を向けてプログラムを作っていることに感心している。将来どういう風になるのか，子供達が自分達で考えられるようなプログラム，文化風土が必要ではないかと思っている。地域で働く，地域を活性化するという風なところにベクトルが向くが，世界にも目を向けるようなプログラムが作られているのはとてもすばらしいと思う。教育プログラムがメインといわれている部分であるが，研究，社会貢献等にも尽力されていることは非常に評価すべきである。

【2】「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価

平成28年度評価　評価結果

選定年度	平成２６年度	整理番号	５２
大学等名称	弘前大学		
事業名称	青森ブランドの価値を創る地域人財の育成		

（「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業委員会」による評価）

（総合評価）

Ａ：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

［コメント］

【優れている点】

・学長のリーダーシップの下、予算の選択と集中、全学的人事等により事業の着実な実施と大学改革が進められていること、また、地域と協力して様々な取組を進めていることは評価できる。